



【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	平和への願い
3	資料名	白梅之塔
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	平和学習、戦争、沖縄戦、白梅之塔、白梅学徒隊、糸満市
6	説明	<p>①白梅之塔</p> <p>白梅之塔は高嶺村真栄里（現在の糸満市真栄里）にある、沖縄県立第二高等女学校の慰霊塔である。沖縄戦で戦没した校長・職員・生徒および同窓会員、他の場所で戦死した学校関係者合わせて149名を合祀している。</p> <p>八重瀬岳の第24師団第1野戦病院解散後、白梅学徒隊16人の学徒が戦地をさまよった末にたどり着いたのが、上の壕（眞山之塔裏）、下の壕（白梅之塔側）とよばれた真栄里の自然壕である。上の壕は食糧弾薬倉庫、下の壕は傷病兵の看護場所で、学徒らは負傷兵の手当てを手伝った。6月21日に下の壕が、翌22日に上の壕が米軍の激しい攻撃を受けた。</p> <p>敗戦後の1948年1月に自然石の小さな碑を建立し、第1回の慰霊祭が執り行われた。「塔」とされているが、実物は琉球石灰岩でできた高さ数十センチの石碑である。その後、1951年8月に建て替えられ、再度、1992年6月に現在の慰霊塔に改修された。白梅同窓会が維持管理を行っている。</p> <p>②白梅学徒隊</p> <p>白梅学徒隊とは、沖縄県立第二高等女学校の4年生56名の生徒達から編成された部隊である。校章の白梅から戦後、「白梅学徒隊」と呼ばれるようになった。白梅隊、白梅看護隊とよばれることもある。</p> <p>1945年（昭和20年）3月6日に第24師団衛生看護教育隊に入隊し、18日間の看護教育を受け、八重瀬岳にある第24師団の第一野戦病院に配属され、傷病兵の看護に専念した。</p> <p>しかし、戦場は日毎に悪化し、昭和20年6月4日までに白梅隊に解散命令が下った。解散命令により隊員はばらばらに逃げ、多くの隊員が命を落とした。隊員の最期となった場所は殆ど不明のままである。</p> <p>解散後、この地に後退した山第一野戦病院で再び合流した一部の白梅隊員は、同年6月21、22日に米軍の猛攻撃を受け、最期を遂げた。この一帯は白梅隊員の最も多くの犠牲者が出た所であるといわれている。</p>
7	形式	静止画（jpg）
8	氏名	撮影者：與那嶺優花
9	時代・年	撮影日：2020/7/3

10	地域・場所	沖縄県糸満市字真栄里
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) で提供
12	関連資料 1	なし
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2022/11/11
16	登録者	與那嶺優花
17	ファクトデータ	 <p>circd083v-0016. jpg</p>
18	* 特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在も毎年 6 月 23 日の慰霊の日に例祭が執り行われている。 ・ 白梅の塔 【表】 白梅之塔 【裏】 散りてなほ 香りに憂し 白梅(うめ)の花 元教諭 金城宏吉 昭和二十二年一月建立 ・ 地下壕は、琉球石灰岩でできた鍾乳洞  <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦時中、沖縄県内にあった 21 の中等学校の全学校が動員されることになった。男子学徒は 14 歳から 19 歳、上級生は「鉄血勤皇隊」、下級生は「通信

		隊」に配属される。女子学徒は15歳から19歳で主にGammaや病院壕で看護活動を行った。
19	* 活用支援	
20	* 利用分野	教育、生涯学習、地域学習、平和学習
21	* 改善結果	
22	* 処理プロセス	
23	* 関連資料2	